

薬剤部

1. スタッフ

薬 剤 部 長	須藤 俊明 (腫瘍センター、医療安全対策部兼務)
副薬剤部長	岩淵 純男
	加藤 朋子 (医療安全対策部兼務)
主任薬剤師	鈴木 道子
	渡邊健時郎 (緩和ケア部兼務)
	坂本 公一 (感染制御部兼務)
	泉 玲子
	深谷 裕之 (医療情報部兼務)
	塚原 由江
	五月女浩史
	中澤 寛仁
薬 剤 師	40名
業務補助員	4名

2. 薬剤部の特徴

薬剤部では、医薬品の調剤、製剤、供給管理、情報提供、TDM (薬物血中濃度モニタリング)、服薬指導等を通じ、医薬品の安定供給と適正使用に貢献している。さらに、これらの業務を相互に連携させることにより、医薬品に係わるリスクの防止に努めている。

施設認定

- 日本薬剤師研修センター研修受入施設
- 日本臨床薬理学会認定研修施設
- 日本医療薬学会認定研修施設

認定薬剤師

日本臨床薬理学会認定指導薬剤師	須藤 俊明
	坂本 公一
日本医療薬学会認定指導薬剤師	須藤 俊明
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム (NST) 専門薬剤師	村上 径世
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	中澤 寛仁
	霜多 博孝
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	片野 昌宏
	中澤 寛仁
	若林 宏海

3. 業務内容と実績

1) 業務内容

①外来・入院調剤業務

調剤部門では1998年の院外処方せん発行開始以来10年が経過したが、その間様々な業務の合理化を行って

きた。現在は院外処方せんを発行できない一部外来患者への処方せん調剤と薬剤情報提供の他、在宅療養に必要な器材や検査処置用薬、病棟配置薬の供給、治験薬の調剤や院外の保険薬局からの疑義照会窓口として活動している。

②製剤業務

製剤部門では予め使用頻度の高い薬剤の混合や分包 (一般製剤・無菌製剤)、医師からの依頼による特定の患者を対象とした市販されていない剤形や規格の薬剤の調製 (院内特殊製剤)、リスクの高い注射薬であるIVHや抗がん剤の混合調製を行っている。2007年10月に本館4階にサテライトファーマシーを稼働させ血液科病棟の当日調製を開始し、2008年には婦人科病棟、呼吸器センターおよび消化器肝臓内科病棟の抗がん剤当日調製も開始した。

過去5年間における注射薬混合調製数 (単位: 本)

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
IVH(病棟・在宅)	2,415	5,358	5,525	6,320	7,534
抗がん剤(病棟)	1,026	11,082	7,173	6,647	8,338
抗がん剤(外来)		4,411	7,864	11,291	12,325
一般薬(病棟)	377	7,028	9,559	9,996	5,662

③医薬品情報業務

医薬品情報部門では院内の医師や他の医療スタッフからの医薬品に関する問い合わせに答える他、薬効別分類医薬品集を隔年に、更に追補版をその年の年に発行している。また、医療情報システムにおける採用医薬品のマスタ管理、オンライン医薬品情報システムのメンテナンス、情報紙「医薬品情報」の発行を行っている。さらに、薬事委員会の庶務を担当し、委員会の円滑な運営等に協力している。なお、薬事委員会では厚生労働省の後発医薬品使用促進政策に基づき、2007年より後発医薬品の積極的な導入を開始し、2008年末の後発医薬品採用数は124品目となった。

④薬剤管理指導業務およびTDM (薬物血中濃度モニタリング) 業務

薬剤管理指導部門では入院患者に処方された薬の薬効や副作用、使用上の注意等を説明し、同時に患者に薬による副作用が発現していないかの確認や、医薬品を使用する上での相談に乗る等の業務 (薬剤管理指導業務) を行っている。さらに患者の薬歴を記録し、薬物療法が適正に行われるよう医師等へのアドバイスをしている。2008年は呼吸器センターでの薬剤管理指導業務、緩和ケア患者への服薬指導を新たに開始した。

また、TDM業務においては移植患者に対する免疫抑制薬の個別投与設計支援を中心にテーラーメイド医療に貢献している。

過去5年間における薬剤管理指導業務量およびTDM実施数

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
服薬指導患者数(人)	1,594	2,129	3,964	4,926	3,649
服薬指導回数(回)	3,400	4,441	4,684	6,185	7,626
退院時服薬指導(回)	1,027	1,248	1,097	1,943	1,711
TDM実施件数(件)	660	627	803	874	931

⑤薬品管理業務

医薬品管理部門では院内で使用する医薬品の安定供給および病棟に在庫する医薬品の管理に寄与している。また、2001年からは中央手術室に薬剤師1人が常駐し、麻薬、毒薬、麻酔薬等取り扱いに注意を要する医薬品の使用管理、血液製剤を中心とする特定生物由来製剤の記録管理を実施している。さらに、2008年からはICUおよびNICUへ薬剤師が外向き薬剤師による医薬品の管理を開始した。

⑥子ども医療センター-薬剤部

子ども医療センターの開設に併せてセンター内に2人の薬剤師を配置し、センター内で使用する検査薬の調剤および本館調剤室で調剤した内服薬や外用薬の服薬指導等を、外来患者と入院患者を対象に実施している。

2) 業務実績 (2008年1月～12月)

①外来調剤に関すること

外来処方せん枚数(院内調剤分)	78,772
外来患者への薬剤情報提供件数	70,744
在宅療養用器材等交付件数	16,652
院外処方せん枚数	263,951
院外からの疑義照会受付件数	11,194

②入院調剤に関すること

入院処方せん枚数	319,561
注射処方せん枚数	176,176

③製剤に関すること

製剤総件数	15,856
注射薬混合調製本数	33,472

④医薬品管理・医薬品情報に関すること

医薬品情報室への問い合わせ件数	1,116
医療スタッフ等への情報提供件数	1,652

⑤薬剤管理指導に関すること

指導患者数	3,649
指導回数	7,626

⑥TDMに関すること

薬物血中濃度解析件数	931
指導回数	7,626

⑦治験に関すること

治験薬受け入れ件数(新規)	30
---------------	----

4. その他

1) 医薬品の安全管理体制整備

近年医療事故が多数報告され、残念ながらその多くが医薬品に関連したものとなっている。薬剤部では副薬剤部長1人が医療安全対策部と兼務し、薬剤部内はもとより院内における医薬品による医療事故の発生防止に努めている。2007年4月の改正医療法の施行により、薬剤部長が医薬品安全管理責任者となり、院内における医薬品の安全使用の実施に努めているが、2008年からは薬剤部長も医療安全対策部を兼務し、医薬品による医療事故防止のための講演会等を実施した。また、薬剤部内では2008年から夜勤者をそれまでの1人から2人にし、夜間時の医薬品払出に対してもダブルチェックができる体制を確保した。

2) チーム医療への参画

薬剤部ではこれまで移植チーム、医療情報部、腫瘍センター、感染制御部および緩和ケア部等への支援体制をとってきた。2008年に新たにNST(栄養サポートチーム)の病棟ラウンドが開始となり、薬剤部からもNST専門薬剤師が参加している。

3) 治験薬の管理

これまでの治験推進室が2008年4月からは臨床試験センターと組織改変されたが、薬剤部では引き続き治験薬の保管や調剤等を通じて適正な治験の運営に協力している。

4) 実習生の受け入れ

薬学部、薬系大学学生を対象に4週間の卒前病院実務実習を3月、6月と10月の計3回実施し、2008年は計15人の薬学部学生を受け入れた。さらに2008年は、大学院生と研修生の受入も行った。なお、薬学部教育が6年制となったことから、大学附属病院薬剤部における薬学生教育の役割は益々重要になるであろう。

5) 地域・僻地医療に対する貢献

薬剤部では2001年から薬剤師1人を薬剤師不足に悩む僻地病院に派遣し、僻地医療への支援を継続的に実施している。また、公衆衛生の向上に寄与する目的から薬剤部への見学者の積極的な受け入れを行っており、2008年は18人の見学者が来部した。